

平成 30 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

令和元年 5 月 1 日

代表者 和田 安代

| | |
|---|--|
| 研究課題名 | 小児 1 型糖尿病患者における栄養素摂取量および生活習慣に関する実態調査と長期継続的栄養教育介入効果に関する検討 |
| 研究期間 | 平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日 |
| 共同研究者 | 松本 晃裕 |
| 1. 今年度の研究概要 | |
| <p>小児 1 型糖尿病においてはインシュリン療法、食事療法、運動療法を一生涯にわたり行う必要がある。近年の治療方法の発展でインシュリン注射による血糖コントロールは以前に比して簡便かつ良好になってきたが、一方で食事療法への意識が低下する要因となる可能性が示唆され、肥満患者が増加している傾向にある。また小児に発症し、成長や合併症等の経過まで検討する必要がある、長期で栄養指導を介入し、その効果を検討することが極めて重要である。しかしながら、継続的かつ長期にわたる小児 1 型糖尿病患者を対象とした栄養教育に関してはほとんど報告がない。そこで本研究では、12 年の長期にわたり、教育キャンプ時および普段の栄養教育を長期継続的に介入することで、肥満や治療にどのように影響を与えるかを前向き介入の臨床研究で明らかにすることを目的として検討を行った。</p> <p>平成 30 年度の教育キャンプにおいては、教育キャンプ参加者全員を対象に、食事療法の基本的事項に関して集団的栄養教育を実施した。キャンプ後において介入群には継続的に栄養教育介入を実施し、介入群、対照群ともに追跡調査を行った。また、治療食に関する開発も行い、栄養教育の礎とすることができた。</p> <p>平成 31 年度以降も引き続き研究を継続する予定である。</p> | |
| 2. 研究の成果 | |
| <p>平成 30 年度の研究に関しては、予算や進め方の関係上、研究計画を変更せざるを得なかったが、その中で最大限結果を出すように善処した。</p> <p>小児 1 型糖尿病の教育キャンプへの参加と、栄養教育の介入とその効果に関する検討では、現在も継続中であるため、今後さらなる研究成果が期待できる。</p> | |

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

【論文】和田安代「機能性表示食品制度における届出されたシステマティック・レビューの報告の質－緒言（Introduction）部分における報告の現状と課題－」Japanese Pharmacology & Therapeutics, 2019; 47(4): 567-572

【論文】上岡洋晴、津谷喜一郎、折笠秀樹、大室弘美、島田美樹子、北湯口純、吉崎貴大、和田安代、眞喜志まり、佐山暁子「機能性表示食品制度における届出されたシステマティック・レビューの報告の質－緒言（Introduction）部分における報告の現状と課題－」Japanese Pharmacology & Therapeutics, 2019; 47(4): 567-572

【学会発表】原純也、遠藤薫、佐伯浩介、山下大翔、早川恵理、和田安代、杉山徹、松本晃裕「高齢者糖尿病におけるサルコペニアの有病率と関連因子の検討」第22回日本病態栄養学会、2019年

【学会発表】小野寺素子、伊沢由紀子、峯真司、中濱孝志、松尾宏美、高木久美、川名加織、中屋恵梨香、伊丹優季貴子、松下亜由子、山口彩、榎田滋穂、岡野亜子、井田智、熊谷厚志、比企直樹、和田安代「悪性リンパ腫における化学療法中の嗅覚以上の発生とその他の副作用に関する調査」第22回日本病態栄養学会、2019年

【学会発表】佐野朋子、村山友梨、西村一弘、藤原恵子、立川恵美子、佐々木香織、和田安代「小児1型糖尿病患者における長期継続的介入による食生活の意識変化に関する検討」第22回日本病態栄養学会、2019年

【著書】管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015準拠 臨床栄養学実習 傷病者の栄養管理プロセス演習（医歯薬出版株式会社） 消化器手術（胃全摘）、炎症性腸疾患（クローン病） p65-80

【学会発表】原純也、遠藤薫、佐伯浩介、山下大翔、早川恵理、和田安代、杉山徹、松本晃裕「高齢者糖尿病におけるサルコペニアの有病率と関連因子の検討」第5回日本サルコペニア・フレイル学会、2018年

【講演】平成30年度病態栄養講習会「論文の書き方」2018年 公益社団法人東京都栄養士会

【学会発表】岩澤里奈、宇於崎仁美、西村一弘、藤原恵子、立川恵美子、佐々木香織、和田安代「小児1型糖尿病患者における食生活の現状と長期継続的栄養教育介入に関する検討」第21回日本病態栄養学会年次学術集会、2018年

【学会発表】藤村優衣、藤田紗妃、和田安代、菅野義彦、榎本眞理「大学病院における食物アレルギー患者に対する栄養・給食管理」第21回日本病態栄養学会年次学術集会、2018年

【学会発表】根本華歩、小林拓、上野明紀、黒沼智、竹内修、和田安代、日比紀文「高脂肪低炭水化物食がマウスの腸管及び腸内細菌叢に与える影響」第21回日本病態栄養学会年次学術集会、2018年

【学会発表】原純也、佐川敬一郎、和田安代、塚田芳枝、大庭みずき、大島真理子、工藤正美、田中美江子、藤山未紀、松野さおり、道脇幸博、菊谷武、丸山道生「北多摩地域におけるシームレスな栄養情報提供を目指した取り組み・栄養士向け研修会と実態調査報告」第21回日本病態栄養学会年次学術集会、2018年

【学会シンポジウム】原純也、佐川敬一郎、塚田芳枝、大庭みずき、大島真理子、工藤正美、田中美江子、藤山未紀、松野さおり、和田安代、菊谷武、丸山道生「北多摩地域におけるシームレスな栄養情報提供を目指した取り組み－在宅に向けた研修会と実態調査報告－」第33回日本静脈経腸栄養学会年次学術集会、2018年